

# 「知らない国」を「伝えられる国」へ

## 【実践者】

|                 |              |      |          |
|-----------------|--------------|------|----------|
| 氏名              | 土井 菜奈子       | 学校名  | 佐野市立北中学校 |
| 担当教科等           | 外国語(英語)      | 対象学年 | 1年生      |
| 実践年月日もしくは期間(時数) | 2024年10月～11月 |      |          |

## 【実践概要】

### 1. 実践する教科・領域

外国語(英語)

### 2. 単元名と単元目標

#### ① 単元名

LESSON4 My Family, My Hometown  
NEW CROWN English Series1(三省堂)

#### ② 単元目標

世界中のそれぞれの国・都市の良さがあることと、自分の住む街の良さを再確認 するために、世界の都市や自分たちの住んでいる都市について聞いたり読んだりしたことを、3 人称単数現在形を取り入れながら自分の言葉でまとめ、選んだ写真を見 ながら簡単な語句や文を用いて発表できるようになる。

#### ③ 関連する学習指導要領上の目標

話すこと(ウ) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて話すことができる。

### 3. 単元の評価基準

#### ① 知識及び技能

<知識> 3人称単数現在形の特徴や決まりに関する事項を理解している。

<技能> 3人称単数現在形を用いて、写真を見ながら簡単な語句や文を用いて即興で話す技能を身に付けている。

#### ② 思考力、判断力、表現力等

多角的に視野を広げ、それぞれの国のそれぞれの良さを正しく理解するために、世 界の都市や自分の住んでいる都市を比較し、聞いたり読んだりした情報をもとに、選 んだ写真を見ながら、自分の言葉でその都市の特徴を簡単な語句や文を用いて相手 に伝えている。

#### ③ 学びに向かう力、人間性等

多角的に視野を広げ、それぞれの国のそれぞれの良さを正しく理解するために、世 界の都市や自分の住んでいる都市を比較し、聞いたり読んだりした情報をもとに、選 んだ写真を見ながら、自分の言葉でその都市の特徴を簡単な語句や文を用いて相手 に伝えようとしている。

## 4. 単元設定の理由・単元の意義

### ① 単元設定の理由

本単元では、教科書の題材以外に教師自身の JICA 教師海外研修での経験やウガンダに関連する教材を用いて、多様な外国の文化や考え方を肯定的に理解し尊重する国際理解教育の視点を大切にしたいと考えた。一見関連が薄いと思われるウガンダと地元地域を比較することで、見えてきた地域社会のすばらしさや地域課題について改めて考え直すきっかけとしたい。また日本やウガンダにおける共通の社会課題に気づき、共に乗り越え生きていくために何ができるか、自分事として社会課題を考えさせたい。特別の教科道德の内容項目の「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」や「国際理解・国際貢献」と深い関連性があるため、教科横断型授業として関連付け、他者尊重、他者理解へと学びを発展させていきたい。

### ② 単元の意義

本単元では、中学校に入学して初めて授業の中で長文読解を扱う。イギリスの都市についてまとまりのある紹介記事を読むことで、外国の文化や慣習の興味・関心を引き出すことへ繋がりたいと考える。さらに外国の文化に慣れ親しむという観点を発展させ、授業者が訪問したウガンダ共和国に関する文化や考えを取り入れたい。教科書にないアフリカに関する知識や文化を読んだり聞いたりしてイギリスや日本と比較することで、国と国のつながりや同一性に気づき、外国を身近に感じられる学びとしたい。開発教育の視点からも、自分の当たり前が世界の当たり前ではないことに気づき、肯定的に捉える思考に繋げていくことができる単元だと考える。

### ③ 児童/生徒観

第1学年4組の34名は、まず自分の力で与えられた課題に熱心に取り組むことができるクラスである。しかし、発信語彙の少なさゆえに沈黙が続いたり、小さい声でのやりとりになってしまう場面が日頃から見られる。そのため、言いたいけれど英語での言い方が分からない表現を生徒から個別に拾い上げる中間指導を心がけている。また、最初から完璧なやりとりを目指すのではなく、なんとか自分の既存の知識を用いて、粘り強く相手に伝えようとする必要性を伝える指導を継続的に行う。新出語彙・表現を含む文を何回も聞いたり読んだりさせ、リテリングの場面でそれらを使い主体的に話したり書いたりしていく、といった技能統合的な学びを図り、インプット・アウトプットの量を増やす言語活動を展開したい。

### ④ 指導観

以上の教材観、生徒の実態を踏まえ、目標を達成するための指導計画を立てた。第1時は本単元の目標を提示し、現地で調達した教材等を用いて、遠くて知らない国というイメージのウガンダから日本との肯定的なつながりを見つけ、ウガンダに対しての興味・関心を引き出す。第2～第4時は文法事項や文構造の理解と定着を図る。同時に本文に登場するタクシー運転手やバグパイプなどイギリスの文化や伝統を紹介し、日本とのつながりの比較することで、イギリスの興味・関心を引き出す。第5、第6時は、「話すこと」[発表]を評価する単元の中心言語活動となる第7、8時の「聞いたり読んだりした情報をもとに、自分の言葉でその国や都市の特徴を相手に伝えられる。」というゴールへの積み重ねとして、イギリスの紹介記事の読解を行い、リテリング活動を行う。第7、8時では、第5、第6時と同様に、教師の準備したウガンダの文化や都市の紹介記事の読解を行い、自分が伝えたい写真を選び自分の言葉で伝えるリテリング活動を行う。紹介記事の内容だけでなく、日本とのつながりや同一性、写真から想像される改善が必要な問題や世界共通の課題があることへ気づかせたい。第9時では、単元を通して明らかにしてきたイギリス、ウガンダ、日本を比較して生まれた肯定的な気づきをもとに、自分が住む栃木県の紹介記事を書かせる。第10時では道德の授業と関連させ、話し合い活動を通して、多文化理解・他者尊重について自分の考えを深めていく。

## 5. プログラム計画

| 回           | テーマ<br>ねらい                                                                                                             | 方法・内容                                                                                                      | 使用教材等                                                                                                          |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1           | <p>●遠く知らない国というイメージのウガンダから日本との肯定的なつながりを見つける。</p> <p>ねらい: 国のつながりや同一性に気づき、自分事として身近に感じられるようになる。</p>                        | <p>①ゴールについて見通しを立てる。</p> <p>②フォトランゲージ法で、ウガンダの写真・動画をもとにクイズに答える。</p> <p>③「へえ面白い！」などの気づきを振り返る。</p>             | <p>・パワーポイント<br/>・写真、動画</p>  |
| 2<br>3<br>4 | <p>●3人称の文法を理解する。</p> <p>ねらい: はたらきやきまりに関する事項を理解し、読み取った本文の内容をまとめる技能を身に付ける。</p>                                           | <p>①本文の要点を捉える。</p> <p>②文法事項の確認をする。</p> <p>③写真を見せながら本文の概要を自分の言葉で相手に伝える。</p>                                 |                                                                                                                |
| 5<br>6      | <p>●イギリスの文化や都市についての文章を読み、自分の言葉で相手に伝える。</p> <p>ねらい: 文章を読んで事実や自分の気持ちなどを整理し、自分の言葉で相手に伝える。</p>                             | <p>①穴埋めワークシートをまとめ、概要を捉える。</p> <p>②説明する写真を選び自分の言葉でまとめる。</p> <p>③ペアの相手に伝える。</p>                              |                                                                                                                |
| 7           | <p>●ウガンダの文化や都市についての文章を読み、必要な情報を読み取り概要を捉える。</p> <p>ねらい: 3人称単数現在形を活用してウガンダについて書かれた文章の内容を読み取る技能を身に付ける。</p>                | <p>①提示された写真を見ながらオーラルイントロダクションを聞く。</p> <p>②本文を読み、穴埋めワークシートをまとめる。</p> <p>③説明できる写真を選び、自分の言葉でまとめる。</p>         | <p>・パワーポイント<br/>・ワークシート<br/>・リテリングシート</p>                                                                      |
| 8<br>本時     | <p>●それぞれの国にそれぞれの良さがあることを知ってもらうため、ウガンダについて自分の言葉で相手に伝える。</p> <p>ねらい: ウガンダの文化や都市について事実や自分の気持ちを整理し自分の言葉で相手に伝えられるようになる。</p> | <p>①前時の振り返りをもとにウガンダについて分かった内容を写真とともに振り返る。</p> <p>②写真を3枚選び、事実や自分の気持ちを整理して自分の言葉でペアの相手に説明する。</p>              | <p>・フラッシュカード<br/>・パワーポイント<br/>・ワークシート<br/>・リテリングシート</p>                                                        |
| 9           | <p>●自分が住む地元を紹介する記事を書く。</p> <p>ねらい: 外国と日本を比較して生まれた肯定的な気づきなどを、学習した文法を用いて正確に書くことができる。</p>                                 | <p>①外国と日本についての自分の気づきを整理する。</p> <p>②自分の気づきを象徴する、日本や地元が存在する文化や習慣について紹介記事を書く。</p>                             |                                                                                                                |
| 10          | <p>●多文化理解を深めよう</p> <p>ねらい: 日本の文化やよさを理解するとともに、他の国の人々や文化に対する理解を深め、互いに尊重しようとする意欲をもたせる。</p>                                | <p>①世界とのかかわりを個人で考えてみる。</p> <p>②範読「違いを乗り越えて」</p> <p>③中心発問: 文化の違いは乗り越えられるか。</p> <p>④ウガンダで感じた文化の違いの経験を話す。</p> | <p>・中学道徳教科書（日本文教出版）</p>                                                                                        |

## 6. 本時の展開

| 時間                                                               | 8校時                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                            |                                                              |
|------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|
| 本時のねらい                                                           | それぞれの国にそれぞれの良さがあることを知ってもらうため、ウガンダについて聞いたり読んだりしたことを相手に伝えられるようになる。                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                            |                                                              |
| 過程<br>(時間)                                                       | 教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態                                                                                                                                                                                                     | 指導上の留意点(支援)                                                                                                                                                                                                                | 資料(教材)                                                       |
| 導入<br>(8分)                                                       | 1. 挨拶をする。<br>2. 帯活動を行う。<br><br>3. 本時の目標を確認する。                                                                                                                                                                              | ・すでに学習した写真、単語を提示しながら、前時の復習をする。<br>・自分の当たり前が世界の当たり前ではないことに気づかせる。                                                                                                                                                            | ワークシート【資料1】<br>パワーポイント【資料2】<br>フラッシュカード                      |
| それぞれの国にそれぞれの良さがあることを知ってもらうため、ウガンダについて聞いたり読んだりしたことを相手に伝えられるようになる。 |                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                            |                                                              |
| 展開<br>(35分)                                                      | 4. 前時で紹介したウガンダの文化 や都市を表す写真一覧を配布 し、伝えたい写真らを選ぶ。<br><br>5. ALT と JTE のモデル例を聞き、本時の目標達成のイメージをする。<br><br>6. マッピングやメモをつくり、ある 程度伝えたい内容を整理し、まとめる。<br><br>7. ペアになり、お互いに選んだ写真を見せながら自分の言葉で説明する。<br><br>8. 最後のペア活動で、振り返り用 として録画をお互いで行う。 | ・前時で学んだ内容を表す写真から、生徒の興味・関心に応じて写真を自由に複数枚選ばせる。<br>・モデル例を見せることで、本時のゴールのイメージを思考させる。<br><br>・単語のみになっている 生徒に対して、主語と 動詞を意識させる声か けを机間支援する。<br>・人種の多様性は存在するが、実際に人々には 多くの共通点があることに気づかせる。<br>・意識が向きにくい3人称単数現在形の形式 操作については細かく 中間指導を入れる。 | 写真【資料2】<br><br><br><br><br><br><br><br><br><br>リテリングカード【資料3】 |
| まとめ<br>(7分)                                                      | 9. 自己評価を行う。<br>10. 挨拶をする。                                                                                                                                                                                                  | ・ペアでの練習を通してどうすればもっと伝わるか、自己調整しながら考えさせる。                                                                                                                                                                                     | 振り返りカード【資料4】                                                 |

## 7. 評価規準に基づく本時の評価方法

- ・取り組みの様子の見とりと観察
- ・リテリングを撮影した動画
- ・振り返りカード(紙、ロイロカード)

## 8. 学校外との連携

- ・佐野市立北中学校 HP による紹介
- ・学校計画訪問時における研究協議の実施

## 9. 生徒の学びの軌跡

### 【第1校時の生徒の振り返り】(抜粋)

- ・ウガンダはまったく日本に関係ない国だと思っていたけれどたくさん共通点があって身近な国なんだなって思った。
- ・あつくて人がこわいくにだとおもってたけど、あたたかくにだった。
- ・国のそんざいや人々について何も知らないのに日本と似ていると聞いたときにほんとなと思ってしまったけど人同士の関わり方や食べ物に共通点を見つけた。やっぱりどの国にも才能がある人がいるんだと思った。
- ・最初ウガンダという国名も場所も知らなかったけど次からきちんとこたえられる。日本とは遠くはなれてるけど今ウガンダで生活している人がいると実感できた。
- ・アフリカがこんなに発展してるとは思わなかった。
- ・信号や交通ルールがないのは怖いわ…
- ・日本の車や日本食、日本が作った歩道橋など、日本との接点がたくさんあったし、価値観も日本と似ている感じがして、楽しそうだなと思った。ウガンダに行ってみたくなった。

### 【資料4 第8校時の生徒の振り返り】(抜粋)

【振り返り】＊自己評価でカード色を変えよう  
ピンク：A

- ・できるようになったところ  
  
時間に近いタイムで読めるようになった。
- ・言いたいけど分からなかった所・表現  
少し時間が足りなくてボダボダに乗っているなど詳しい表現ができなかった

【振り返り】＊自己評価でカード色を変えよう  
ピンク：A 黄：B 青：C

- ・できるようになったところ  
ウガンダと日本での違いや同じところについて、自分の表現を使って説明することができた
- ・言いたいけど分からなかった所・表現  
三枚目の写真の説明でプリントだと「He is studying English with me.」だけどこを「my teacher」と表現してもいいのかわからなかった。

【振り返り】＊自己評価でカード色を変えよう  
ピンク：A 黄：B 青：C

- ・できるようになったところ  
・時間内にすべて読めた  
・オリジナルの文を作れた。
- ・言いたいけど分からなかった所・表現  
・Ugandaを日本語読みのまま発音してしまった

【振り返り】＊自己評価でカード色を変えよう  
ピンク：A 黄：B 青：C

- ・できるようになったところ  
どのカードも説明できた  
makeをmekesと変えて言うことができた
- ・言いたいけど分からなかった所・表現  
教科書のことを言うときに「彼らは一人一人持っている」と言う表現ができなかった。

【振り返り】＊自己評価でカード色を変えよう  
ピンク：A 黄：B 青：C

- ・できるようになったところ  
説明するときに画面をでかくしたり指を指してみたりした
- ・言いたいけど分からなかった所・表現  
最後の教科書のところが思い出せなくて言えなかったし、なんて言えいいかわからなかった

【振り返り】＊自己評価でカード色を変えよう  
ピンク：A 黄：B 青：C

- ・できるようになったところ  
日本とは違うバナナの色や味を相手に伝えることができた  
ウガンダの車は日本で作られているものを使っていることを伝えられた
- ・言いたいけど分からなかった所・表現  
Othersの発音が分からなくなってしまってたばしてしまったので覚えたいです

【振り返り】＊自己評価でカード色を変えよう  
ピンク：A 黄：B 青：C

- ・できるようになったところ  
写真に応じて、表現を変えることができた  
少し時間が足りなかったけど最後の写真までいけた
- ・言いたいけど分からなかった所・表現  
「寺子屋の教科書」

【振り返り】＊自己評価でカード色を変えよう  
ピンク：A 黄：B 青：C

- ・できるようになったところ  
1回も噛まずに説明できたこと。  
特に、dangerousを前は言えなかったけど、今回は、噛まずに言えたこと。
- ・言いたいけど分からなかった所・表現  
疑問文を説明文に直すのが少し分からなかった。



## 10. 自己評価

### ① 成果が出た点

自校全体として、外国と自分たちとのつながりを考えたことがない、全く知らない・分からないという生徒がほとんどであった中で、ウガンダという国を通して自分の暮らしや将来について考えるきっかけを作ることができたのが一番の成果だと感じる。振り返りの感想から、アフリカは貧しい、怖い、というマイナスイメージから、自分たちとの共通点を見つけ、肯定的な気づきができたと生徒がたくさんいたことがとても嬉しく感じている。

### ② 苦労した点

本時は英語の授業として展開したが、中学校1年生時点の語彙力では、伝えたいことを思ったように自由に表現できない難しさがあると思った。開発教育のねらいを十分に達成するには、やはり総合的な学習の時間・道徳の授業が適していると感じた。

### ③ 改善点

通信環境の懸念からオンライン交流授業ができなかった。オンラインでつなぐことにこだわらず、国際理解啓発コーナーの充実、関連図書の紹介、総合的な学習の時間の年間計画の見直しなど、今できることを同僚と協働して取り組んでいきたい。

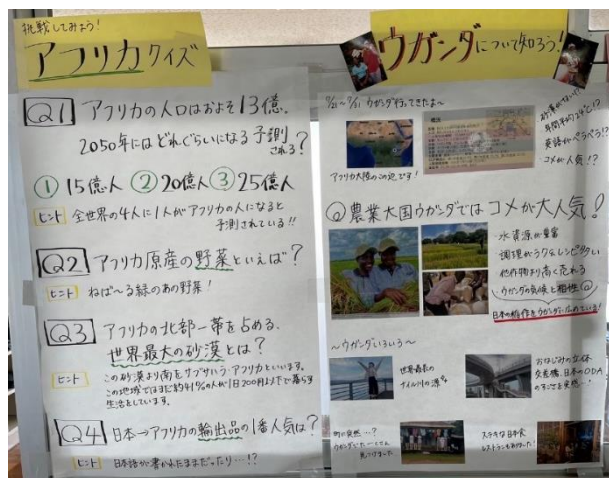
## 11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

### 【国際理解啓発ブース “ワールドコーナー” の設置】



1学年フロアに他国への興味・関心のきっかけとなるようなワールドコーナーを設置し、授業を受けて興味を持ち始めた生徒の国際協力の学びの一步のため、JICA や外務省から入手した読み物や漫画を誰でも手にとれるようにした。実際に掲載された下野新聞は、生徒が足を止めて見る光景が多く見られた。

### 【ウガンダクイズ・アフリカ理解ブースの設置】



(左)アフリカクイズコーナー

(下)写真をまとめたアルバム、仲本千津さんの図書、ポストカード、現地で入手した皿、うちわなど。



## 12. 自由記述

日本で暮らす中学生の多くは、学校での働きかけがない限り、自分から世界に興味をもつことは難しいと思っている。知らないということは、先入観や固定概念がなく様々な知識や考えを自由にたくさん吸収してくれることを、実感している。自分自身も考えをアップデートし、チャレンジできたこの研修の意義を忘れないでいたい。

## 13. 参考資料

| 資料名                                       | 著者名等   | 出版元、URL 等                    |
|-------------------------------------------|--------|------------------------------|
| 参加型アクティビティ集 コミュニケーション編                    | 久世治靖 他 | 特定非営利活動法人 NIED<br>国際理解教育センター |
| 中学道徳 あすを生きる                               | 日本文教   | 日本文教                         |
| アフリカで、バッグの会社ははじめました：寄り道<br>多め、仲本千津の進んできた道 | 江口絵理   | さ・え・ら書房                      |

## 14. 本時で使用した資料

### 【資料1】ワークシート

These are about Terakoya school in Uganda.

They dance "Soran Bushi".

He wears "Happi", Japanese traditional cloth.

Look! He is studying English with me.

He studies very hard every day.

Does he have his own textbook? No, he doesn't. He shares it.

Does he use clean toilet? No, he doesn't.

What do you think? What can we do?

**STEP1** 記事を読み、下線を引いて、概要を捉えよう。

ウガンダの首都、カンパラ市では \_\_\_\_\_ を使っている人もいれば、 \_\_\_\_\_ に乗っている人もたくさんいる。 \_\_\_\_\_ をしていない2人乗りもあるので、危険。

日本人も大好きな \_\_\_\_\_ はウガンダで人気のある食べ物で、ウガンダ人も大好き。日本人の専門家の方たちがウガンダで \_\_\_\_\_ を教えています。

おサルさんが \_\_\_\_\_ を食べている！我々が普段食べている品種と違い、 \_\_\_\_\_ ものもあれば、緑色で \_\_\_\_\_ 味がするものもある。毎日ご飯で食べるくらい、身近な食べ物。

寺子屋という学校施設では、日本の \_\_\_\_\_ 服の \_\_\_\_\_ を着て \_\_\_\_\_ を子どもたちと踊りました。また、 \_\_\_\_\_ を土井先生と一緒に勉強している様子です。とっても勉強熱心！

でも、この子は自分の \_\_\_\_\_ を持っている？きれいな \_\_\_\_\_ を使っている？

あなたはどっち？日本に住む君たちはどんなことができるだろう？

**STEP2** 印象に残った写真を1枚選び、その写真の説明+日本と比較したオリジナル1文をつくらう。

(ex) ・ In Uganda, people eat bananas every day. In Japan, people eat them as fruits.

**Lesson4 Goal** それぞれの国にそれぞれの良さがあることを知ってもらうため、ウガンダについて聞いていたり読んでいたりしたことを相手に伝えられるようになる。 I-\_\_ No\_\_ Name\_\_

**Scene** 夏休みにウガンダを訪れた土井先生が、ウガンダに関する紹介記事を書きました。先生は皆さんにウガンダについて分かったこと・考えたことを、できるだけ多くの世界のの人たちへ発信してほしいそうです。

**My favorite Uganda and Japan** By Ms.Doi

Uganda has many good points. I show you some pictures.

This is Kampala City.

Some people use Japanese TOYOTA cars.

Others ride a bike, bodaboda.

He doesn't have a helmet. It is dangerous.

This is rice field in Uganda. He makes rice.

Rice is popular food in Uganda.

Uganda and Japanese people like rice.

Some Japanese teach making rice.

Look! This is a monkey. He eats a banana.

Some bananas are small.

Others are green and sour.

People eat them every day.

### 【資料2】導入パワーポイント

Today's goal

それぞれの国にそれぞれの良さがあることを知ってもらうため、ウガンダについて聞いていたり読んでいたりしたことを相手に伝えられるようになる。

### 【資料3】リテリングカード

This is rice field in Uganda.  
He makes rice.  
In Uganda, people like rice.  
Some Japanese teach making rice.

These are students at Terakoya school.  
They dance soran-bushi.  
He wears traditional clothing, Happi.

He is studying English.  
He studies very hard every day.

みんな  
マネいね！